

近代日本の百貨店が築いた華やかな都市文化

「百貨店ある記 ～買うときめき、めぐる楽しみ～」公開

国立国会図書館は2月7日（金）に、ミニ電子展示「本の万華鏡」第27回「百貨店ある記 ～買うときめき、めぐる楽しみ～」を公開しました。明治末期から昭和初期までを中心とした黎明期の百貨店にまつわる文化や歴史が、ウェブ上でお楽しみいただけます。

近代日本の百貨店は華やかな都市文化の発信地でした。流行を生み出す広告や壮麗な百貨店建築、商品の陳列販売や女性店員の登用、さらに展覧会や食堂、屋上庭園など、今につながる当時の百貨店の試みに注目です。

今回、第27回はスマートフォンからの閲覧にも対応しています。お手元のスクリーンを通して、資料に残された昔の百貨店の姿をぜひご覧ください。

■ 取り上げた資料の一部

（下の URL から詳細な画像をご覧ください。）



▲アール・ヌーヴォー様式のポスター広告

杉浦非水の作品。着物の図柄や家具の装飾にアール・ヌーヴォー様式が取り入れられています。

（出典：東京アートディレクターズクラブ編『日本の広告美術：明治・大正・昭和. 第1（ポスター）』美術出版社、1967）



▲化粧品売り場の女性店員

百貨店は明治30年代に初めて女性を採用しました。売り場で働く女性の姿は、世間の注目を集めたようです。

（出典：東京開成館編輯所『現代商業写真帖』東京開成館、1936）



<https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/27/>

■ 報道機関の方のお問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 総務課 広報係 03-3506-5103（直通）